与謝野晶子と裏磐梯

秋の水　次の湖沼へ移るとて　薄の原に　鳴れる　おく山

動かざること青玉に　変わらねど　落ちて流れる　音ある湖水

うしろにし　湖水を前に　せざるもの　あらざる草の　早くうら枯る

なにがしの　蝶の羽がもつ　青の外（ほか）　ある色ならぬ　山の湖

湖沼ども　柳葉翡翠（やなぎはひすい）竜胆（りんどう）の　いろ鴨跖（つき）くさの　青をひろぐる

五色沼　いくつの色をしか呼べど　数を知れるも　あらぬ沼かな

与謝野晶子は、明治十一年（一八七八）十二月七日生。会津に二度来ています。一回目は明治四十四年八月で、会津若松市の東山温泉新瀧楼（新瀧）へ来ました。二回目は与謝野鉄幹の一周忌にあたる昭和十一年（一九三六）年九月です。前年には猪苗代から裏磐梯のまで道路がようやく完成したのです。なお、裏磐梯と呼ばれるのは、大正九年からでそれまでは桧原と呼ばれていました。

晶子が会津に来たのは、会津若松市の森芳介・愛子兄妹の招きでした。

昭和十一年九月四日、晶子は猪苗代町長浜の「鳥万」に宿泊。五日には裏磐梯に入り九首歌を残しました。歌からは、五色沼の神秘な色、湖畔で草花の姿や沼の色の多さに驚いたようすが伺えます。その日は、裏磐梯にあった宮森太左衛門・遠藤十次郎（醤油屋、新横町滝口太右衛門十二男）の別荘に泊まり、六日には猪苗代から会津若松市の戸ノ口、蕎麦と天ぷら饅頭で知られ強清水で休憩し、東山温泉の向瀧へ向かい宿泊しました。強清水では、秋のようすを歌っています。

七日には、鶴ヶ城や飯盛山、御薬園に行き、会津女子高等学校（現葵高校）では記念講演をしています。その日は、会津若松市柳原町の森家別荘に宿泊。十日に帰京します。昭和十五年には、森芳介と晶子の六女藤子が結婚しています。

晶子は、昭和十七年五月二十九日に死去。

会津の歌は、昭和十七年晶子の遺稿集『白桜集』に「会津詠草」として収められています。与謝野晶子の住まいは、東京都杉並区南荻窪で、今は「与謝野公園」となっています。

「強清水」にて
杯に　京街道の　強清水　盛りて少女の　授けたるかな

「飯盛山」にて
白虎隊　そのいやはてに　望みたり　哀れと城の　崩されにけん

「鶴ヶ城」にて
秋風が　今は行くのみ鶴が城　北の出丸も　帯の廓も

「長浜」にて
長浜を　巻ける林に　軽く乗る　磐梯山と　うす紅の空

「東山温泉」にて
東山　伏見の滝の上にある　狐の湯にも　聞ける夜の雨

「御薬園」にて
秋風に　荷（うす）葉うらがれ　香を放つ　おん薬園の池をめぐれば

図・写真・文　©石田明夫2016　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「会津歴史観光ガイド協会」で検索。